

専門分野

【老年看護学の考え方】

老年期は、発達段階の最終段階にあり多くの喪失を体験しながらも、自我を統合していく時期である。そのため老年看護学では、高齢者を看護するために必要な加齢に伴う身体的・心理・社会的及びスピリチュアリティの変化を学び、地域で生きる高齢者の生活と、それを取り巻く社会福祉システムを視野に入れ、長い人生で培った人間的強さ、価値観に関心を寄せ最後まで自分らしく生きることを支える高齢者の多様性・個別性に合わせた看護実践に必要な知識を理解する必要がある。

また、様々な健康レベルにある高齢者に対し、生活者として継続的な視野をもち、あらゆる場においても QOL を維持し、対象の「健康」と「生活」を支える看護を実践していくための基本的な考え方や知識・技術を身につける必要がある。そのため、講義では「老年看護学概論」「老年保健」「老年看護援助論Ⅰ」「老年看護援助論Ⅱ」の構成とする。

老年看護学概論では、看護の対象である老年期に生きる人々の身体的・心理・社会的及びスピリチュアリティの特徴への理解を深める。特に老化のメカニズム、加齢に伴う心身の機能変化は、様々な疾病・障がいをもつ高齢者への看護を実践するうえで基盤となる知識である。また、年々増加し続ける高齢化率に反し、高齢者と同居する若者は減少傾向にある。高齢者を生活者としてとらえ、個別性ある看護実践には、高齢者を全人的に理解する老年観が必要である。そのため、世代間交流を通して、高齢者の人間的強さ、健康的な側面にも着眼し、生涯発達の理論をもとに人間を生涯発達していく存在として理解する。また、当校の教育理念である「人間尊重」を基盤とした生命と個人の尊厳について、高齢者の権利とエンパワーメントに着目した老年観を育成する。

老年保健では、わが国の高齢者をとりまく社会の趨勢と老年期の生活を広い視野で理解する。介護保険法をはじめとする保健医療福祉制度の変革や、家族サポート・地域社会の変化が高齢者の健康・生活に与える影響など、老年看護学をとりまく地域・社会の理解とニーズの把握は老年看護の場の多様性、地域包括ケアの一環として看護師の果たす役割を考えることにつながる。また、あらゆる場においても高齢者の健康・生活の連続性に目を向け、継続看護の視点をもち、その人らしい生活を支えるための社会福祉システムの知識を活用し、望ましい生活をコーディネートするための知識の習得を目的とする。

老年看護援助論Ⅰでは、高齢者の加齢変化を理解し QOL、生活機能の観点から個別性ある看護過程展開のためのアセスメントの視点を理解し、高齢者体験等のシミュレーションを取り入れることで、高齢者の視点に立ったアセスメントを強化する。

老年看護援助論Ⅱでは、高齢者に多い疾患や高齢者の生活の質に影響を与える主要な症状・状態のメカニズムと高齢者に起こりやすい疾患を理解し、生活への影響のアセスメントから看護計画の立案、演習を組み込み、実践能力の強化を目指す。また、近年増加し続ける認知症高齢者への看護を強化し、認知症の正しい知識の理解から人間のもつ力やその人らしさに目を向けた認知症看護実践の基礎的能力を育成する。

【目的】

老年期にある対象の加齢変化を含めた多様性・個別性ある人間の理解を通し、あらゆる場において健康状態に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を習得する。

【目標】

1. 加齢に伴う身体的・心理・社会的変化の特徴を理解できる。
2. 老年看護観を形成していく基本となる老年看護の原理、倫理を理解できる。
3. 地域で生きる高齢者の生活と、それを取り巻く社会の趨勢を視野に入れ、高齢者の多様性・個別性を理解する。
4. 高齢者の生活を支える保健福祉医療システムの動向と現状が理解できる。
5. 高齢者の加齢変化を理解し QOL、生活機能の観点から看護過程展開のためのアセスメントの視点を理解する。
6. 高齢者の生活の質に影響を与える高齢者に多い疾患・主要な症状・状態のメカニズムと生活への影響のアセスメントから看護計画の展開方法が理解できる。
7. 認知症の正しい知識を学び、認知症看護実践に必要な基礎的能力を習得できる。

【構成及び計画】

講義

科目	単位数	時間数	学年別計画時期		
			1 年	2 年	3 年
老年看護概論	1	15	○		
老年保健	1	15			○
老年看護援助論Ⅰ	1	15		○	
老年看護援助論Ⅱ	1	30		○	
合計	4	75	1(15)	2(45)	1(15)

専門分野

科目名		老年看護学概論	開講時期	単位数	時間数
			1 年次前期	1	15
担当教員		専任教員			
科目目標		1. 老年期の身体・心理・社会的な発達を理解し、老化に伴う心身機能の変化と生涯発達し続ける存在として高齢者のもつ力を洞察する視点を理解する 2. 老年期にある方が生きている社会を理解し、生活者として継続した視点を持ち、看護実践を行う必要性を理解できる 3. 現在を生きる高齢者との世代間交流を通し、個別性と多様性を理解し、老年看護観を述べることができる			
DP との関連性		1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	老年看護学を学ぶ意義 老年看護の成り立ち 現在の高齢者を取り囲む社会の統計的理解			講義	
2	高齢者の生活環境の理解 老年期の生涯発達理論			講義	
3	老年看護の役割 老年看護実践の特徴 老年看護の理論			講義	
4	高齢者の発達と加齢変化			講義	
5	世代間交流			実践	
6	世代間交流			実践	
7	世代間交流を通して学びの共有			グループワーク	
8	筆記試験(45 分)				
評価方法		筆記試験 100 点			
教科書		老年看護学 医学書院			
実務経験		本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名		老年保健	開講時期	単位数	時間数
			3 年次後期	1	15
担当教員		非常勤講師			
科目目標		1. 我が国の高齢社会の特徴と保健・医療・福祉対策の動向と現状を理解する 2. 高齢者の生活を支える地域包括システムを理解できる			
DP との 関 連 性		3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができ 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	我が国の高齢社会の特徴と課題			講義	
2	高齢者の生活を支える法・制度の概要			講義	
3	高齢者差別・高齢者虐待 高齢者の人権と共生社会 成年後見制度と地域福祉支援事業			講義	
4	生涯教育と高齢者の学習課題・健康教育			講義	
5	高齢者のための法制度の変遷			講義	
6	介護保険制度の目的と理念 介護保険制度によるサービスと保健医療・福祉サービス			講義	
7	地域包括システムの中での老年看護の役割			講義	
8	筆記試験(45 分)				
評価方法		筆記試験 100 点			
教科書		老年看護学 医学書院			
実務経験		本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名		老年看護援助論Ⅰ	開講時期	単位数	時間数
			2 年次前期	1	15
担当教員		専任教員			
科目目標		1. 老年看護の基本となる高齢者の生活機能の視点から看護過程の展開のためのアセスメントの視点を学ぶ			
DP との関連性		3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	高齢者の看護過程展開のための視点 生活機能・ICF モデル・高齢者総合機能評価 ゴードンの枠組みに沿った老年期のアセスメント ①栄養・代謝 ②排泄			講義	
2	③活動運動 ④睡眠・休息 ⑤認知・知覚			講義	
3	⑥役割・関係 ⑦健康・知覚・健康管理			講義	
4	⑧ストレス・コーピング ⑨価値・信念 ⑩自己知覚・性・生殖			講義	
5	高齢者のアセスメントの視点のまとめ			グループワーク	
6	高齢者体験・学びの発表			シミュレーション	
7	高齢者のアセスメントの視点について発表			グループワーク	
8	筆記試験(45 分)				
評価方法		筆記試験 100 点			
教科書		老年看護学 医学書院			
実務経験		本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名		老年看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
			2 年次後期	1	30
担当教員		専任教員・非常勤講師(認知症認定看護師)			
科目目標		1. 高齢者の生活の質に影響を与える主要な症状のメカニズムと高齢者に起こりやすい疾患を理解し、生活への影響並びに家族も含めた看護を学ぶ 2. 認知症高齢者の看護に必要な知識を学び、その人のもつ力に目を向けた看護を考えることができる			
DP との関連性		1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 2. 自己を客観的に見つめ内省することができる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法	
1	高齢者の尿・便失禁ケア			講義	
2	高齢者のスキンケア			講義	
3	高齢者に起こりやすい転倒防止のケア			講義	
4	高齢者の生活リズムを整えるケア			講義	
5	高齢者に多い疾患別看護			講義	
6	高齢者に多い疾患・症状・状態別看護の計画立案			事例検討	
7				グループワーク	
8	計画に基づいた看護の実践・リフレクション			シミュレーション・演習	
9					
10	認知症とは せん妄・老人性うつとの鑑別 認知症の動向・中核症状・BPSD			講義	
11	認知症の診断・検査・治療 長谷川式スケール・MMSE 等			講義	
12	認知症の種類と特徴			講義	
13	認知症ケアの実際・パーソンセンタードケア			講義	
14					
15	筆記試験 2 回				
評価方法		筆記試験 症状・状態別看護 60% 認知症ケア 40%の割合を総合して評価する			
教科書		老年看護学 医学書院			
実務経験		本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			